

啓 発 活 動

平成12年度実験センター見学者実績

平成12年度の実験センター見学者実績を表にまとめた。

1年間で、140団体1824人の見学者があり、官公庁、市民、その他の割合が多くなっている。

その他の中には、海外からの見学者が、30ヶ国100人程度含まれると共に、大部分が、小中学生の環境教育として、本施設が利用されだした結果である。

表 平成12年度実験センター見学者一欄表

平成12年度	官公庁		民間		学識経験者		市民		その他		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	2	8	3	8	0	0	0	0	4	7	9	23
5月	0	0	6	27	3	6	0	0	3	99	12	132
6月	1	4	3	21	2	6	2	165	2	12	10	208
7月	6	74	1	2	1	25	4	138	1	6	13	245
8月	5	47	0	0	1	2	1	70	4	36	11	155
9月	5	36	8	14	0	0	0	0	6	187	19	237
10月	2	11	3	29	1	4	4	100	8	170	18	314
11月	6	93	4	71	0	0	1	24	7	71	18	259
12月	3	14	2	4	0	0	1	15	2	9	8	42
1月	2	19	1	5	0	0	0	0	1	16	4	40
2月	8	89	2	4	0	0	0	0	2	13	12	106
3月	4	39	1	22	1	2	0	0	0	0	6	63
合計	44	434	34	207	9	45	13	512	40	626	140	1824

水環境クリーンウォーク

県民の方々に、琵琶湖の水環境の現状を自分の目で見て、肌で感じとってもらうとともに、身近なところからその保全に向けた行動に参加してもらい、琵琶湖の尊さや水環境の重要性について理解を深め、よりよい水環境の創造に向けて認識を新たにしてもらうため、「琵琶湖の日」関連事業の一環として本事業が実施された。

また、平成10年1月1日に「環境にやさしいまちづくり」を目指し、市民の健康で文化的な生活を実現するために施行された草津市環境基本条例に基づく「環境にやさしい週間」関連事業の一環として開催された本事業の開催に協力し、実験センターの施設を参加者に説明した。

1. 日 時：2000年6月24日（土）13:00～15:00

2. 内 容：一般県民等から募集した参加者に、矢橋帰帆島（水環境科学館）をスタート地点として、烏丸半島（水生植物公園みずの森前）をゴール地点とした湖岸沿い（約10km）を、以下の企画に参加しながらウォーキングをする。

- (1) 湖岸の清掃活動
- (2) ネイチャーゲーム
- (3) B i y o センター施設見学 など

3. 参加者数：120名

4. 写真及び新聞掲載等



施設案内風景

ごみを拾い集めながら草津市の湖岸を歩く参加者ら



草津琵琶湖岸すっきり

水環境クリーン・ウォーク

草津市の琵琶湖岸を清掃活動しながら歩く「水環境クリーン・ウォーク」(県、草津市など主催)が二十四日行われ、参加者らが約六キロから十キロにわたって湖岸を歩き、空き缶などごみを拾った。

2コースに分かれ 120人ごみ拾う

市民約百二十人。午前十時、同市矢橋町の県立水環境科学館を出発した参加者らは、同市志那町の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(ビーオーセンター)までの約六キロコースと、同市下物町の市立水生植物公園みずの森までの約十キロコースに分かれ歩いた。

京都新聞(朝刊) 平成12年6月25日

水環境は大丈夫?

琵琶湖岸でクリーン・ウォーク



ポリ袋を手に琵琶湖岸のごみ拾いをする参加者―草津市で

ごみ拾いや施設を見学

120人参加

琵琶湖南湖の湖岸拾いを清掃活動したり、ネイチャーゲームを楽しみながら歩く水環境クリーン・ウォークが、草津市内で開催された。

びわ湖の日(七月一日)と、同市の「環境にやさしい週間」(六月二十五―七月一日)の関連事業で、約六十と約十の二コースに、百二十人が参加した。

同市の滋賀県立水環境科学館を出発し、草津川河口付近など二カ所でごみ拾いをし、空き缶や空き瓶など九十三袋(小型トラック二台分)のごみを集めた。

湖岸の緑地公園ではゲームを通して、楽しみながら自然や環境を学んだ。また、市内の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターなどの関連施設も見学した。

中日新聞(朝刊) 平成12年 6月25日

実験センター生き物調査 —自然観察会—

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターでは、多自然型水路を中心とした施設において水質浄化やどのような生き物が生息していくか（ビオトープづくり）の調査を行い、水辺環境の創造に役立てるための基礎データをとっている。また、平成11年度から地域住民の方々とネットワークをつくり一体となって水辺環境づくりを取り組んでいこうと考えて、実験センター生き物調査を行い、平成12年度も引き続き実施した。今年度は昨年度募集を行った草津市の方だけでなく募集範囲を広げ、特に大阪府を中心とした淀川流域の方を対象に、チラシ、ポスターおよびインターネットなどで広く参加を呼びかけた。

1. 日時

平成12年7月29日（土）10:00～12:15

2. 場所

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県草津市志那町地先）

3. プログラム

当日のプログラムを表3-1に示す。

表3-1 当日プログラム

時 間		
9:30～10:00	受付	
10:00～10:02	開会挨拶	
10:02～10:05	講師紹介	
10:05～10:10	施設の概要説明	
10:10～10:15	平成11年度に実験センターで観察された生き物の説明	
10:15～10:20	注意事項、スタッフ紹介	
	(水生動物)	(陸生植物)
10:20～10:40	調査方法の説明・実演	観察の仕方、観察
10:40～11:15	観察	
11:15～11:30	プランクトン観察・説明、まとめ	標本の作り方説明・実演
11:30～11:40		まとめ作業
11:40～12:00	発表	
12:00～12:10	講評	
12:10～12:15	アンケート記入、質疑応答	
12:15	閉会挨拶	

参加者は各自実験センターに集合するようにした。9:30から受付を開始し、10:00から開始とした。開会挨拶、講師の先生がた（琵琶湖博物館の学芸員）の紹介、施設の概要説明、平成11年度の調査で確認された生物の概要説明、注意事項を行った後、水生動物と陸生植物にわかれ、観察およびまとめ作業を行った。各班に1、2人の担当スタッフがつい

た。観察結果を各班ごとに発表した後、講師の先生がたからの講評、アンケート記入、閉会挨拶を行った。

4. 当日の配布物

当日、参加者への配布物は、名札、プログラム、注意事項、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターパンフレット、実験センター内で観察された生き物をまとめた「Biyoセンターの生き物たち」、アンケート用紙、BY BLUE Vol. 6および琵琶湖・淀川環境事典CD-ROMであった。

5. 主催・協力

主催：(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

協力：建設省近畿地方建設局琵琶湖工事事務所、水資源開発公団琵琶湖開発総合管理所、滋賀県立琵琶湖博物館、草津市、草津市教育委員会、関西電力㈱、環境文化推進市民会議、草津塾、(社)大阪自然環境保全協会

6. 結果

(1) 参加者

応募者は66人（男：39人、女：27人）で、参加者は当日の飛び込み参加者を含めて68人（男：39人、女：29人）であった。参加者の年齢層は4歳～75歳と幅広く、参加者の住所は大阪府下13人、京都府下6人、滋賀県下49人であった。陸生植物の体験者は14人（男：5人、女：9人）（うち3人は水生生物第1希望）、水生動物の体験者は54人（男：34人、女：20人）と水生生物体験希望者が圧倒的に多かった。陸生植物は7人ずつに2班、水生動物物は10～11人ずつに5班にわけ、班単位で観察からまとめまでの作業を行った。

(2) 実施状況

実施状況を写真6-1～写真6-3に示す。

写真6-1

調査方法の実演



写真6-2

自然観察（水生動物班）



写真6-3

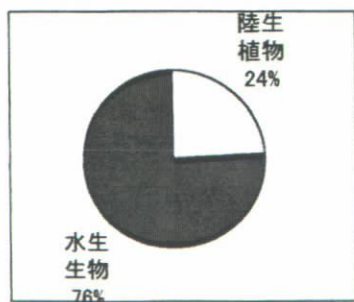
植物標本作り



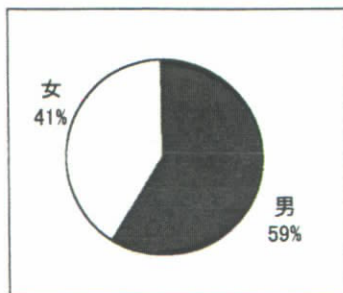
(3) アンケート結果

今後の参考のためにアンケート調査を行った。アンケートの記入者は58人であった。その結果を図6-1、自由記述欄の記述結果を表6-1に示す。

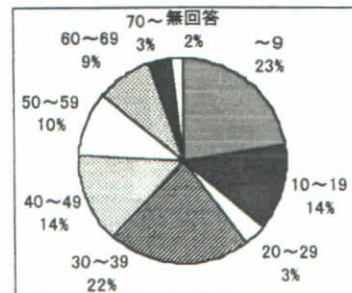
体験種



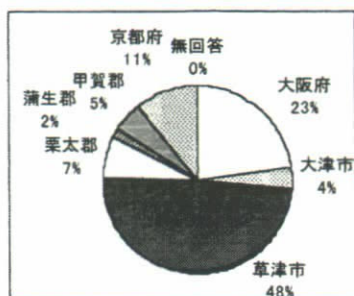
性別



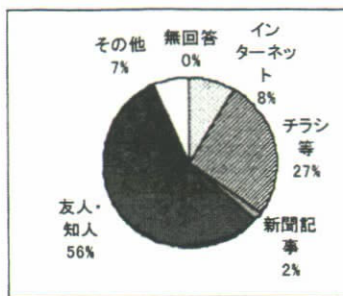
年齢



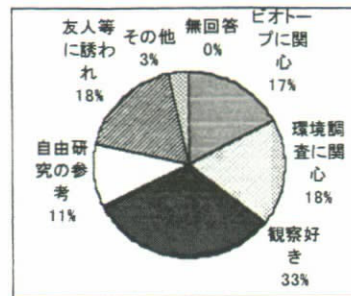
住所



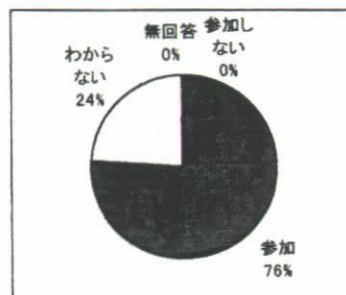
何で知りましたか



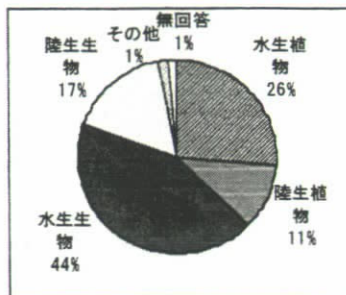
参加動機は（複数回答可）



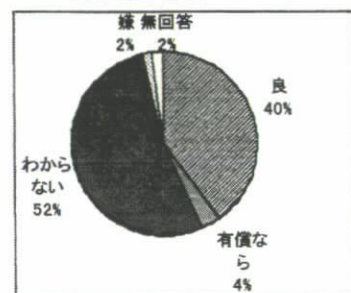
今後も参加しますか



何に参加したいですか（今後も参加したい人のみ回答）



ボランティアで実験センターの生物調査を行ってもよいか



どのくらいの頻度（生物調査を行ってもよい人のみ）

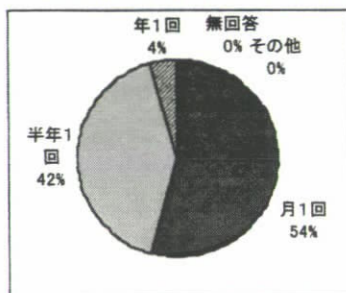


図6-1 アンケート調査結果

表6-1 アンケート調査結果（自由記述欄）

参加動機その他の記入

人	内 容
1	プランクトンを見たい
1	子供を自然に触れ合わせたい

自由記入（複数回答あり）

人	内 容
12	いろいろな魚（水生生物）がいて楽しかった。いろいろな魚の数の多さに驚いた。
9	投網やプランクトンネットの体験ができた。水路に入って網で魚が捕れた。
4	先生やスタッフの指導が良かった。生物の名前や特徴を教えてもらえて良かった。
4	時間がもっと欲しい。ゆっくり観察したかった。もっとやりたかった。
3	今度は植物にも参加したい。また参加したい。
3	ザリガニがいっぱいいた。子供がたくさんのザリガニに喜んでた。
3	今後、（琵琶湖畔で、家の近くで）観察したい。もっと詳しく図書館で調べてみたい。
2	観察会を定期的に（年に何回か、年4回位）開催してほしい。
3	自然に触れ合えて親子で楽しめた。子供にも体験させられて、大変有意義だった。
1	再発見する事ばかりでとてもいい勉強になった。
1	プランクトンが少なかった。またやりたい。
1	センターと琵琶湖で魚類等の種類がかなり違うのが興味深かった。

- 1 固有種の減少というのを聞いていたので本当に外来種が増えていることに驚いた。
とてもおもしろかった。
- 1 スタッフの皆さん、ご苦労様です。研究を続けて、日本種が増える場を作って欲しい。
- 1 今回、タナゴが多くて驚いた。また来年も観察会に参加したい。
- 1 近くにこんなセンターがあることを知らなかった。参加して良かった。
- 1 また他の季節でも機会があったら来てみたい。ありがとうございました。
- 1 施設が出来て間がないのにだんだん多種の生物が生息するようになる自然の力の強さを感じた。
- 1 田の水路の殆どがU字溝等に工事され、メダカ等がすみにくくなり残念。
自然のままの溝を残してほしい。
- 1 もっと多くの子供達にこのような体験をさせてほしい。
- 1 固有の自然環境を維持するのがいかに難しいか、よく理解できた。
- 1 子供が関心を持って参加した。理科を好きになってくれればと思う。
- 1 興味深い内容だった。
- 1 メダカが自生で、力強く思った。
- 1 小さい頃から魚や虫取りが大好きで、今でもこんなにたくさんの種類の生物が見れて嬉しかった。
- 1 このような調査研究施設があるのを知って良かった。また学べる機会があれば是非参加したい。
- 1 ヤゴを初めて見た。顕微鏡でプランクトンを見るのがおもしろかった。
- 1 タイリクバラタナゴの卵管から卵が出てくるのが見れて、すごく良かった。
- 1 琵琶湖にいろんな魚・植物がいることや、ミジンコが見れて、感激した。今度は家族で参加したい。
- 1 たくさんの生物のいる琵琶湖を大切にしなければと思う。
- 1 タイリクバラタナゴがきれいで貝に卵を産むのが面白かった。ナマズを見たかった。

参加者の性別は男59%、女41%と若干男性の方が多かった。年齢は、30歳～39歳が一番多く22%で、次いで10～19歳、40～49歳のそれぞれ14%であった。19歳以下の参加者が37%、30～49歳の参加者が36%を占めており、参加条件として小学校3年生以下は父兄同伴としたことから、親子連れの参加者ではほぼ70%であったと推測できる。

実験センター近隣の草津市内居住者は48%（昨年度52%）で、次いで大阪府居住者が23%（昨年度3%）と昨年度に比べ大幅に増加した。自然観察会（実験センターの生き物調査）を「友人や知人から聞いて知り参加した」人が56%と一番多く、次いで「チラシやポスターで知り参加した」27%となった。「インターネットを見て参加した」人が8%（昨年度0%）であり、いわゆる口コミの威力にはかなわないが、広範囲の人々に募集を呼びかける手助けとなっている。

参加した動機は、「身近な自然（動物や植物）を観察してみたかったから」が多く33%であった。「ピオトープづくりに関心があるから」「環境問題や環境教育に関心があるから」「友人・知人に誘われたから」などの動機は17～18%で大きな差はなく、昨年度（それぞれ13～23%）と大きな変化は見られなかった。

今後このような生き物調査を実施した場合に参加するかの問いには、76%が「参加する」とし、「参加しない」と回答した人は0%であった。体験したいものは、水生生物が44%、水生植物26%、陸生生物17%、陸生植物11%の順に多く、当日体験した種だけではなく他の分野にも参加を希望している。

自由記入では、「楽しかった」「驚いた」というだけでなく様々な感想、意見があったが、「また参加したい。今後も続けて欲しい」や「自分でも観察してみる。図書館などで調べたい」といった積極的な感想が多かった。また、「琵琶湖を大切に」や「固有種が減少しているのは残念」など、環境問題に興味を持ったと思われる意見も記入されており、このような啓発活動を続けていくことの重要性が示唆されている。

(4) マスコミ取材状況

大手前記者クラブ、近畿建設記者クラブ、草津市政記者クラブやマスコミ数社に実験センター生き物調査（自然観察会）の開催案内を事前に通知したところ、中日新聞社と環境新聞社の取材があった。掲載記事を記事6-1、6-2に示す。



人工水路で生き物を探す参加者＝草津市の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで

ビオトープに生物200種類

津で観察会

身近な自然 まもろうよ

草津市志那町の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターの事業を委託している琵琶湖・淀川水質保全機構が企画した。

葉山川の河口部に造られたセンターは、県や建設省などが九年に開設。約五万平方メートルの施設内には、自然に近い構造を持つ多自然型水路があるほか、ヨシ帯やクレソンなどが植栽され、各種の浄化実験が行われている。

これらを通してビオトープ（生物の生態空間）づくりが進められているため、植物や昆虫など多くの生物が生息するようになり、その数は二百種類以上に上る。

観察会は、これらの生き物に驚かすために、観察班ごとに発表し、その多さを競っていた。

参加者は、図鑑を片手に琵琶湖をかたどった土池で投網を打って魚を捕ったり、ネットを使ってプランクトンを採取。植物採集もした。これらを顕微鏡で観察したり、標本にしたりした。

確認した生き物の種類を班ごとに発表し、その多さを競っていた。

記事6-1 中日新聞（滋賀版）記事（H12. 7. 31朝刊）

まちかど 情報

滋賀県草津市の「琵琶湖・淀川水質浄化共同実験（B I Y O）センター」でこのほど自然観察会（写真）が開かれ、幼稚園児から七〇歳代まで幅広い年齢層から八名が参加した。

琵琶湖博物館の学芸員五名とともに、実験施設である多自然型水

路や琵琶湖型池、ワンドなどに生息する水生生物や植物を採取した。確認できた種は植物で三二種、魚類八種、貝類七種、底生生物五種以上。なかには同県のレッドデータブックに

水辺の大切さ学ぶ観察会

から七〇歳代まで幅広い年齢層から八名が参加した。

琵琶湖博物館の学芸員五名とともに、実験施設である多自然型水

B I Y Oセンター

ガヤやメダカなど、貴重な生物種が生息するようになった。観察会は、流域住民に生物に触れてもらい、水辺の大切さを啓発する機会となっている。



記事6-1 環境新聞記事（H12. 8. 30）

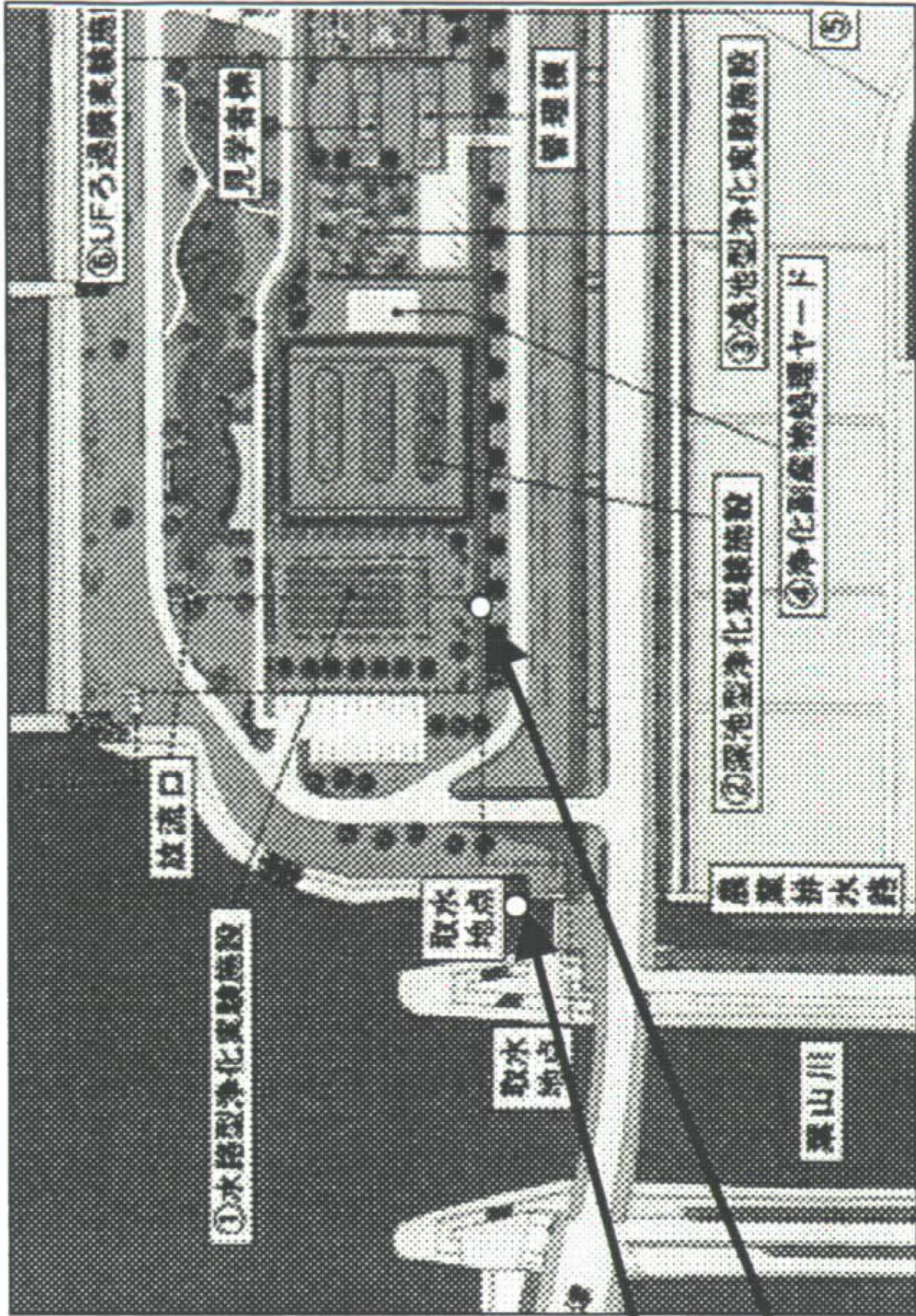
葉山川河川水および農業排水の水質

月日	pH		SS		COD		T-P		T-N	
	葉山川 河川水	農業排水	葉山川 河川水	農業排水	葉山川 河川水	農業排水	葉山川 河川水	農業排水	葉山川 河川水	農業排水
平成12年5月22日	7.1	7.3	20.0	17.2	5.3	7.3	0.161	0.256	1.43	1.56
平成12年6月26日	7.0	7.0	30.3	10.6	5.7	5.6	0.159	0.163	1.51	1.70
平成12年7月21日	7.2	7.2	26.4	5.9	5.7	4.9	0.149	0.161	1.38	1.73
平成12年8月25日	7.3	7.6	22.0	14.6	5.2	5.1	0.142	0.205	0.79	0.87
平成12年9月7日	7.1	7.6	16.7	8.7	4.0	4.0	0.125	0.207	1.29	1.46
平成12年10月27日	7.0	7.0	14.3	4.1	6.4	6.1	0.129	0.155	1.88	1.89
平成12年11月13日	7.2	7.1	3.3	2.8	3.7	4.2	0.061	0.109	1.32	2.95
平成12年12月18日	7.0	7.0	8.7	5.5	4.9	4.8	0.101	0.113	1.74	2.20
平成13年1月17日	7.3	7.4	42.3	52.7	6.8	6.4	0.163	0.187	1.62	1.53
平成13年2月5日	7.1	7.1	6.7	10.5	4.6	5.2	0.089	0.112	1.95	1.69
平成13年3月1日	7.1	6.8	40.3	41.1	6.2	8.6	0.185	0.293	1.68	3.02
平均値	7.1	7.2	21.0	15.8	5.3	5.7	0.133	0.178	1.51	1.87

葉山川河川水の底質

月日	T-C mg/g	T-P mg/g	T-N mg/g	強熱減量 %
平成12年9月7日	46	3.8	2.6	12.9
平成13年2月5日	260	4.3	16	32.6
平均値	153	4.1	9.3	22.8

農業排水採水地点
葉山川河川水採水、採泥地点



琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター年報 第3号
— 平成12年度 —

発行 2001年9月
国土交通省近畿地方整備局
滋賀県
水資源開発公団関西支社
財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

実験センター 〒525-0005 滋賀県草津市志那町地先
TEL 077 (568) 2032
FAX 077 (568) 2052

問い合わせ先 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号
TEL 06 (6202) 1267
FAX 06 (6202) 1317
E-mail biyokiko@byq.or.jp